

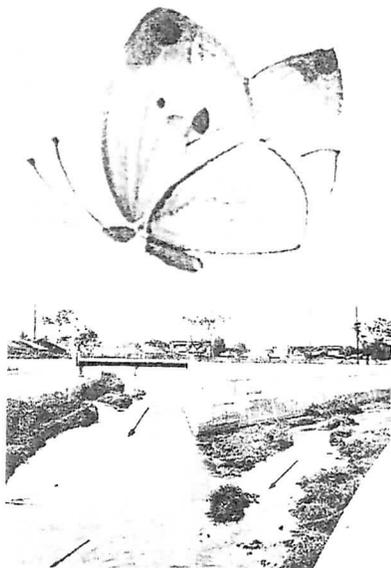
神田川（その3）

この二枚の写真を見ておわかりでしょうか。左は河川改修工事が始まる昭和5年以前の神田川（左側）と妙正寺川（右側鉄橋の下）が合流する地点の写真です。場所は西武線の下落合駅付近で河川には護岸・堤防もなく、人家も見当たらない自然そのままの田園風景です。下は改修工事が終わった昭和9年頃の写真で合流地点がよくわかります。

さてこの「落合」という町名は神田川と妙正寺川が合流して落合うことからこの名が付けられたと伝承されています。

しかし現在この合流地点は封鎖され、神田川の一部は妙正寺川と合流し新目白通り（放射7号線）の地下を通過し新宿区戸塚の高戸橋で神田川と再び合流しています。

この「高田馬場分水路事業」は昭和43年に開始され昭和59年に完成、現在落合及び上高田調節池と共に洪水対策に非常に威力を発揮しています。



神田川（その4）

前回で「神田川」は終回の予定でしたが、都庁建設局河川部から借用した昭和初期の写真集（約70枚掲載）のうち、これだけは是非と思ひ選定し、「その4」としました。さらに前3回を含め、書き漏らした箇所を補足し、神田川の最終回とします。

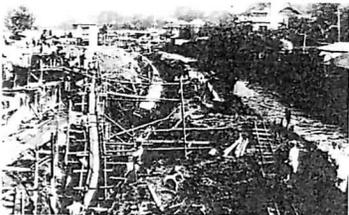
改修工事が始まる昭和初期までの神田川は、ある種の産業が非常に盛んでした。その1つに「染物屋」が非常に多かったこと、小滝橋から落合の流域にはたくさんありました。☆印の写真に見える櫓やぐらは、川で洗った反物を干す物干し台です。また現在“中野パーマロイ”（5丁目）のある場所には、明治から大正にかけて製粉や製糸工場があったことが地図に記されています。そしてその工場の動力源として神田川から用水路を引き、その水力で2台の大きな水車を回し、使用していたとことです。

私にとっての神田川は、幅4〜5メートル程の用水路で、流域には牧場があり、また蚊帳の切れ端で造った「四つ網」で兄とメダカや鮎あなを捕った、小学1年生の頃が懐かしく思い出されます。

写真提供／東京都建設局河川部



☆戸田平橋（高田馬場）付近の出水



小滝橋下流護岸工事現場